

## ■「知性×行動特性」学修プログラムのグローバル展開について

学生は、その学修過程では、自分自身の現時点での能力を見極め、日々変わっていく自分自身を見つめて行くことが重要です。そこで必要なのが、「今の自分」の力を知り、「新たな自分」の力を目標として設定するだけでなく、その道筋を明確化すること—その実現のために本学では、世界スタンダードな教育評価のインフラとして、図-1に示す「知性×行動特性」学修プログラムを開発し、2011年度からその運用を開始してきました。125年以上の伝統と建学の理念である「實地應用ノ素ヲ養フ」を実践する実学教育のもと、大学在学中から卒業後も社会的・職業的自立を図るために必要な能力として、『知性（専門的知識・技術）』×『行動特性（実地応用する）』を掲げています。その中核の一つが、

学生の行動特性（コンピテンシー）向上を支える本学独自の自己評価システムである「C-compass」です。このシステムを活用し、かつ持続的なPDCAサイクルを担保することで、常に学生たちが目標を持ち、それに向かって前進し続ける習慣を養うことが可能になります。

「グローバルC-compass」は、グローバルという視点から「C-compass」をさらに充実・発展させ、図-2に示すように卒業生に求められるコンピテンシーを7分野、31項目で詳細に定義し、各項目に関して6段階（0～5）の到達度を設定しました。とくに、新たにカテゴリーとして多様性創発力（diversity）を追加し、そのなかには自確力（Identity）、融合力（Harmonization）、協創力（Synergy）をキーワードとして定

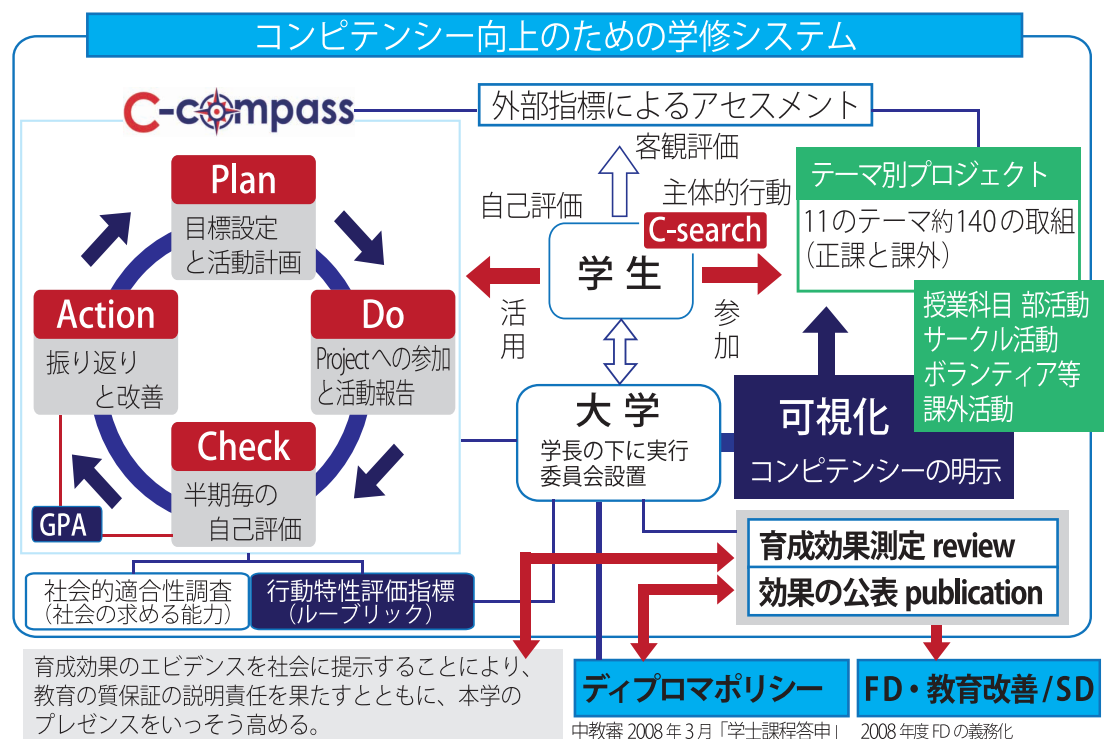
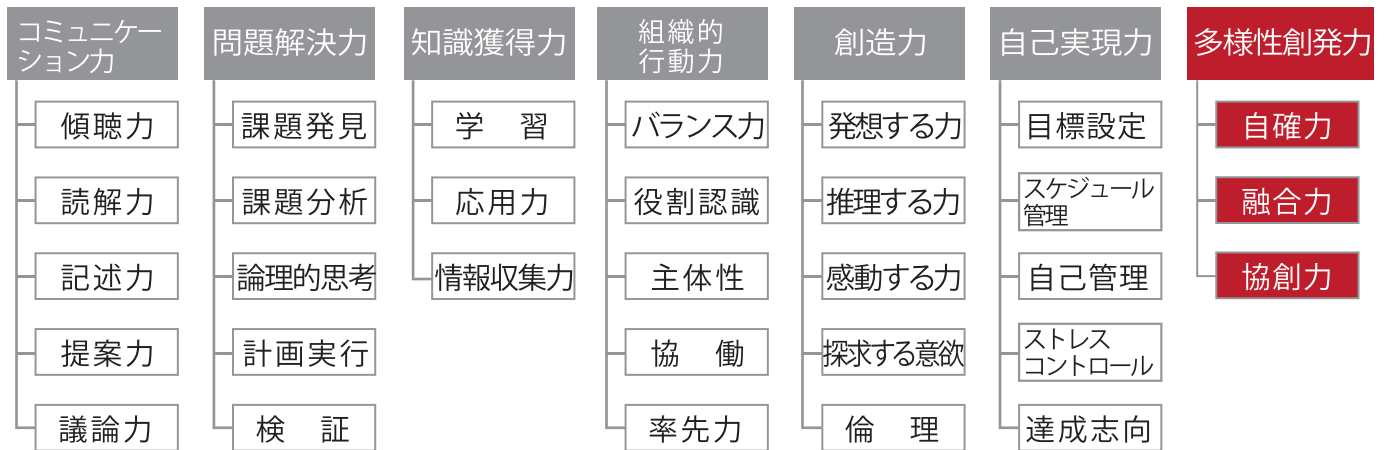


図-1 「知性×行動特性」学修プログラム  
—世界スタンダードな教育評価のインフラ—

卒業生に求められるコンピテンシーを7分野、31項目で詳細定義し、各項目に6段階（0～5）の到達度を設定



義しました。

このような指標に基づき、本学では学生一人ひとりが本学での教育・体験を通して成長した結果として生み出される「グローバル社会で輝く力を持った人間」になることを目指しています。学生諸君には、「グローバルC-compass」を活用し、自ら行動することで、「自分」に十分な力を付け、その力を世界・社会への貢献のために発揮してもらいたいことを望んでいます。

	項目	行動定義
カテゴリー	多様性創発力 (Diversity)	自らを正しく認識し、存在感を高め、多様性（文化・習慣・価値観等）に積極的に適応しつつ、その協同から、相乗効果を生み出すことで、新たな価値や成果を得る
キーワード	自確力 (Identity)	自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく認識したうえで、自分が何を望むか、まわりが自分に何を望んでいるのかを総合的に判断し、行動することで存在感を高める
	融合力 (Harmonization)	異なる文化・習慣・価値観等の相互理解を得て、積極的に適応し、互いに学びながら協同する
	協創力 (Synergy)	多様性（文化・習慣・価値観等）がある複数人の協同により、相乗効果を得て、新たな価値や成果を生み出す

図-2 グローバル C-compass  
—卒業に求められるコンピテンシーおよび新カテゴリーとキーワード—

## ロジックテストを実施

英語の会話、科学技術文書の理解には、論理的な考え方が有効です。論理、すなわちロジックに注目することにより、流麗な語彙や文法でなくとも「通じる」コミュニケーション能力を短期間で修得できます。

ロジックテストは、日本論理検定協会が運営するテストで、英語で論理的にコミュニケーションをする技能を評価することを目的としています。グローバル英語はノンネイティブが主な使用者である現状に鑑み、応用テストには不完全な英語で書かれたテキストに基づく出題もします。文と文の関係、話の骨格である主張と結論の関係を問

い、思考力に重点を置くテストです。

理工学部では、2013年4月に同学部入学生全員を対象にロジックテストを実施しました。多数の新入生が参加し、熱気あふれる中、2時間弱のテストに取り組みました。テスト結果は全受検者に個別にフィードバックされ、個々の学修に活かされています。6月には2年次以上の学生も参加して、第2回ロジックテストが実施されました。

また、論証能力を教示・涵養する「ロジック講座」も併せて開講しています。